



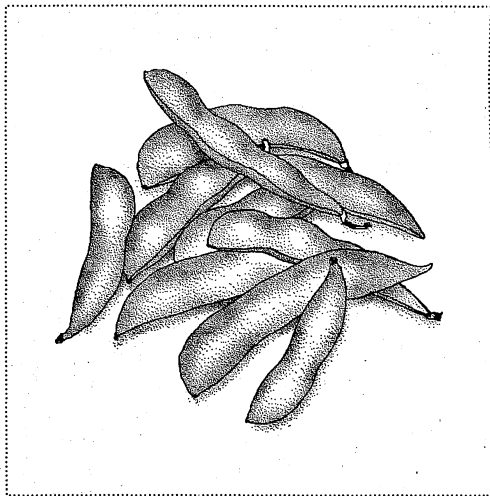
肥料過多に注意

——**鮫島 國親**

語源は「枝成り豆」で、ダイズ(大豆)を未熟うちに、枝になっている状態で収穫するためエダマメと呼ばれます。若い緑色の子実を食用とすることから、栄養的には豆と野菜両方の特性を持っており、タンパク質が豊富で、ビタミンB₁・B₂・C、カルシウム、食物繊維などを多く含んでいます。

品種は、本来短日植物であるダイズの中で、日長にあまり影響されないで花が咲く夏ダイズの白毛種が多く用いられています。とれたての味が楽しめる代表的野菜で、収穫後急速に鮮度が落ちますが、枝についての状態では品質の低下が軽減されます。連作障害は少ない方ですが、できれば**ネギ類などの輪作が望ましい**です。今回はトンネル早熟栽培を紹介します。

発芽適温、生育適温は20-25度で、霜に弱いので晩霜に注意する必要があります。一般暖地でのトンネル栽培の種まき適期は2月中-下旬ごろです。本ぼには1平方メートル当たり苦土石灰100g、堆肥1kg、化学肥料20-30g(三要素15%の場合)を目安として施します。なお、エダマメは肥料が多すぎると過繁茂になってしまい莢の着きが悪くなるので、前作の肥料が残っている場合は施肥量を減らしましょう。



直まき栽培の場合、種まきの1週間前に透明ポリをマルチして、ビニール又はPOフィルムをトンネル被覆します。また、セルトレイ育苗などによる移植栽培も可能です。発芽後20日程度の若苗を植えましょう。うね幅は180cm(トンネル幅120cm)とし、うねの長辺方向と直角に、条間15cm、株間15cm(一条六株)にまいて、二条ごとに一条空けます。

ちなみに、露地栽培はうね幅45cm、株間20cmの一条植えとします。トンネル内は日中20-25度で管理します。種まき後40-50日の3月下旬-4月上旬に開花を始めます。

収穫適期は開花後35-40日くらいです。上位の莢が十分肥大しきったところに株ごと引き抜きます。収穫が遅れると莢が退色し、子実が硬くなり商品価値が低下します。

(**鹿児島県農業開発総合センター副所長**)

平成20年1月17日(木) / 南日本新聞